

単元名 球技（ゴール型）「バスケットボール」

令和4年12月5日
男子15人 女子18人 計33人
体育館

1 単元について

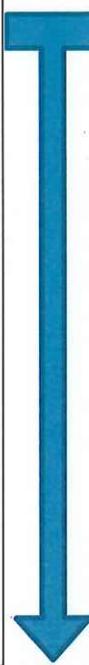
単元観

本単元は、中学校学習指導要領保健体育編、体育分野、第1学年及び第2学年「E 球技 ゴール型 バスケットボール」を受けて設定している。

球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。中学校では、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しながらゲームを開拓できるようにすることが求められる。

保健体育科では、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成し、それを生かし自己の適性等に応じた関わり方を見付ける必要がある。

そこで本単元では球技の特性を知ることで、全員がそれぞれの楽しさや喜びを味わうための方法を見付けることを目標とする。バスケットボールは、他のゴール型球技よりもボール操作が比較的容易であるため、ゴール前での攻防における学習課題がメインとなる。



生徒観

本学級の生徒を対象に体育授業に関するアンケートを行ったところ、「運動は好きだ」について90%の肯定的回答、「体育の授業は好きだ」について97%の肯定的回答があり、授業に意欲的に取り組んでいることが分かる。

また、「体育の授業では、技能に関するポイントを理解しようとしている」については、肯定的回答が100%で、知識や技能を習得しようという意欲もあることが分かる。ふり返りシート等の記述からも前向きに学ぶ姿勢がうかがえる。

しかし、「体育の授業の時、私は存在感があると思う」については、肯定的回答が60%と低かった。

このように、授業に意欲的に取り組んでいるものの、自己存在感の低い生徒がいることが本学級の体育授業における課題である。

本学級にはこれまで競技としてのバスケットボールを経験したことのある生徒が男女計10人在籍している。

指導観

- ① 単元を貫く問い合わせとして「バスケットボールでみんなが楽しさや喜びを味わうにはどうしたら良いだろう？」を設定し、作戦に応じた技能で仲間と連携し、ゲームを開拓することを通してこの問い合わせの答えを探すための手立てを打っていく。
- ② 経験の有無によるバスケットボールを「する」時間の二極化を防ぐため、基本技能を習得することの必要性を説き、ドリル形式で反復練習を繰り返す。
- ③ 基本技能を習得するためのポイントを簡潔に提示することで、生徒が合い言葉のように伝えられるようにする。
- ④ プレイヤーの人数やプレイ上の制限を工夫するなどし、スマールステップで本来の競技に近づけていく。
- ⑤ ボールを持たないときの動きに着目させるため、タブレット端末のビデオ機能を活用するなどし、客観的に課題が分かるようにする。
- ⑥ 「チーム内の対話」を活性化させるため、課題解決の視点をヒントとして与え、それに沿って必要感のある対話となるようにする。
- ⑦ 身に付けたい力と振り返りの視点を毎時間明確に提示することで、発展的な振り返りができるようにする。

<阿賀中学校区研究主題との関連>

- 必要感のある対話を通して、お互いの考えを深め合えるようにする。（上記⑥）
 - <他者との対話>
- 対話や学びを深めるために、ICT機器を進んで活用できるようにする。（上記⑤）
 - <ICTの効果的な活用>
- 自らが身に付けた学びをさらに発展させられるようにする。（上記⑦）
 - <主体的に学ぶ態度の育成>

単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようとする。</p> <p>ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようとする。</p>	<p>攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようとする。</p>	<p>球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ること、作戦などについての話し合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようとする。</p>

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることを理解している。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。</p> <p>③パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。</p> <p>④ボールを持っている相手をマークすることができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまりの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>③練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p>	<p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>③作戦などについての話し合いに参加しようとしている。</p>

2 指導計画（全10時間）

時	学習内容	評価			
		知	思	主	評価規準（評価方法）
1	オリエンテーション ○授業の進め方と評価規準の確認を行う。	①		①	【知・技】球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることを理解している。 （ワークシート） 【主】球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 （行動観察・ワークシート）
	单元を貫く問い合わせ 「バスケットボールでみんなが楽しさや喜びを味わうにはどうしたら良いだろう？」				
2	基本のパスを練習する。 ○ポイントを示し、それを基に小集団で互いの技能を修正しながら進める。			②	練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 （行動観察・ワークシート）
3	前時に学習したパスを用いてゲーム形式を行う。 ○チーム内での対話を通じて、パスの課題を発見する。		①		提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 （ワークシート）
4	基本のドリブルを練習する。 ○ポイントを示し、それを基に小集団で互いの技能を修正しながら進める。	②			球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解している。 （ワークシート）
5	前時に学習したドリブルを用いてゲーム形式を行う。 ○チーム内での対話を通じて、ドリブルの課題を発見する。	③			パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 （行動観察）
6 (本時)	学習したパスとドリブルを用いて、ゲーム形式を行う。 ○チームの課題は何なのか、他者に伝える。		①		提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 （行動観察・ワークシート）

7	前時と同じ対人形式を、ディフェンスに重点を置いて行う。 ○チーム内で自分の役割をしっかり果たす。			③	作戦などの話し合いに参加しようとしている。 〈行動観察・ワークシート〉
8	試合形式を行う。 ○チームにはどんな課題があり、どんな解決策があるかを見付ける。		④ ②		【知・技】ボールを持っている相手をマークすることができる。 〈行動観察〉 【思・判・表】提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 〈行動観察・ワークシート〉
9	5 vs 5 のゲームを行う。 ○周りの友人の頑張りを発見する。		③		練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 〈ワークシート〉
10	スキルテスト ○パスやドリブルなどの基本技能の定着度を確認する。		③		パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 〈スキルテスト〉

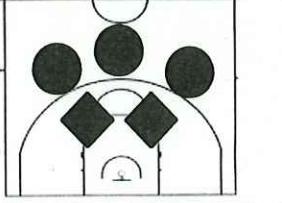
3 本時の展開（本時 6／10）

(1) 本時の目標

ゴール前の攻撃における仲間の課題や出来映えを伝えることができる。

【資質・能力／思考力・判断力・表現力】

(2) 本時の展開

	学習活動	○指導上の留意点 ☆生徒指導の三機能につながる手立て ◆「支援を要する」生徒への手立て	○具体的評価規準 (評価方法) 【評価の観点】
出会う・つかむ	1 W-U Pとボールハンドリングを行う。(一斉) 2 本時の活動内容と課題を確認する。(一斉)	○ルーティン化したW-U Pとボールハンドリングを各自行う。 ☆開始から集合完了まで生徒主導のテンポで行わせる。〈共感的人間関係の育成〉 ○ゴール型の球技は、攻撃のゴールがシュートであることを再確認する。	
本時の学習課題「攻撃の課題と効果的な方法を発見し、仲間に伝えよう。」			
	3 パス・ドリブル練習を行う。(小集団) 4 3 vs 2 のゲームを行う。(小集団)	○前時までのポイントを隨時伝える。 ◆個別に課題解決のヒントを与える。 ○ゲームは男女各2カ所とし、「する」時間と「みる」時間(他のチームの課題を発見する時間)をつくる。 ◆タブレットのビデオ機能を活用し、ボールを持たないときの動きに着目させる。	○ゴール前の仲間の課題や出来映えを伝えている。(行動観察・ワークシート) 【思考・判断・表現】
♦3 vs 2 のルール ①オフェンス(攻撃)3人、ディフェンス(守備)2人で行う。 ②ディフェンスがオフェンスのどこかにパスをしてスタート。 ③オフェンスはシュート(レイアップなし)を目指し、ディフェンスはカットを目指す。			
 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ゴール前に相手がない状態でシュートを打つはどうしたら良いだろう？ </div> <div> 課題発見の視点 ・守備者がいない状態でシュートを打てているか ・ボールを持っていない人はどう動いているか、どう動けばよいか </div> </div>			
♦3 vs 3 のルール (3 vs 2からの変更点) ・オフェンスはシュート(レイアップあり)を目指し、ディフェンスはカットを目指す。			

振り返る	6まとめ、振り返りを行う。(一斉)	○振り返りシートに沿って、振り返りを行う。 ○次時はディフェンスのポイントを提示すること、そうするとまたゲームの様相が変わることを伝え、学習の見通しをもたせる。	
		<u>予想される生徒の反応</u> <ul style="list-style-type: none"> ・3 vs 2は簡単だったが、3 vs 3になるとなかなか自由にシュートが打てなかつた。 ・周りの人にアドバイスをもらって動き方が分かつた。 	

本時記入するワークシート（ロイロノート）

6 シュートが打ちたくて悪いか！			
⑤マークされていない味方にパスをすることができる。□			
⑦提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができる。			
W-UP 説明 バス・ドリブル練習 3 vs 2 作戦会議 3 vs 2 まとめ・振り返り	今日の振り返り	先生が記入	先生が記入
	3vs2にはどんな難しさがありましたか？（オフェンス）	3vs2にはどんな難しさがありましたか？（ディフェンス）	
	実際に今日攻撃がうまくいった場面を図に表してみよう	作戦会議でどんなことが改善されたと思いますか？	
	 <ul style="list-style-type: none"> ●…攻撃側 ○…守備側 バス…点線 (—) ドリブル…波線 (~) 人の動き…直線 (-) 	次の作戦会議ではどんな働きをしたいか。	

成果（○）と課題（●）

校番（7）【阿賀中学校】

1 「本質的な問い合わせ」による単元構想について

- 「球技の特性は何だろう？」という本質的な問い合わせを立て、本単元では、「バスケットボールでみんなが楽しさや喜びを味わうにはどうしたら良いだろう？」を単元を貫く問い合わせとして設定した。この問い合わせに対し、生徒は、新たな課題を見付けながら、バスケットボールの楽しさを味わうことができた。これは、バスケットボールを「する」ことだけでなく、「見る」ことにも注目させたことや、スマールステップで本来の競技に近付ける工夫をしたことの成果だと考える。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

- 単元の最後に行ったスキルテストにおいて、基本技能（パス・ドリブル）が身についていた生徒は80%であった。これは、基本技能を習得することの必要性を繰り返し説明しながら、毎時間ドリル練習を行ったことや、チーム内での教え合いの時間を設けた成果だと考える。また、技能習得のためのポイントを簡潔に示したことで、合い言葉のように生徒が口にしながら活動する場面が見られるなど、技能についての意識の向上が見られた。

(知識については3学期実施の筆記試験で評価)

【思考・判断・表現】

- 仲間の課題や出来映えを小グループで伝え合う場面が多く見られた。また、毎時間の振り返りの時に、授業のねらいに沿った記述が多く見られた。これは、課題発見の視点を明確に提示するなどの指導の工夫を行ったことによるものと考える。

生徒の振り返り

仲間とどんな関わり方ができましたか？

同じ人が同じ役割ばかりになる事がないように回数制限をして交代するようにした。声を出してボールを持っている人が動きやすいようにした。

今日の振り返り

味方へのパスや味方からパスをもらいたい時の仕草など、自分が見ているときに勉強になった点や改善した方がいい点が見付けられた。

3vs2にはどんな難しさがありましたか？（オフェンス）

ディフェンスの人を避けながら、味方にパスしたりシュートしたりするところ

3vs2にはどんな難しさがありましたか？（ディフェンス）

ボールを攻撃側へ渡さないように常に誰かの前に着いておくこと

今日の振り返り

今日はディフェンスにつかれていらない味方を探してパスを出しました。外から見ている時に、プレーしている人にどうすればいいか伝えることができたと思います。

3vs2にはどんな難しさがありましたか？（オフェンス）

ディフェンスにつかれていらない味方を探すこと

3vs2にはどんな難しさがありましたか？（ディフェンス）

オフェンスの方が一人多いので、カバーしなければいけないこと

- 生徒同士で仲間の課題や出来映えを伝え合う活動について、教師がその場で評価する機会が少なかった。

【主体的に学習に取り組む態度】

- チーム内の仲間の学習を援助しようとする場面が見られた。これは、チームでの練習の機会を多く設定し、示された練習方法の中から自分たちに必要な練習を選んで活動させたことによるものと考える。
- 積極的に活動する生徒が多く見られた。これは、運動の得意不得意に左右されない活動を多く設定し、誰もが楽しめるようにしたことによるものと考える。

3 「デジタル機器」の活用

- 自分のプレイを客観的に見るために、ビデオ撮影をし、作戦などの話合いに活用することで、より具体的に作戦を立てたりアドバイスをし合ったりすることができた。
- ロイロノートで作成し、配布した作戦盤を活用することで、生徒は客観的な視点で、課題を発見することができた。
- デジタル機器の活用方法を提示したが、必要感のある対話には結びつかないグループもあった。今後はより視点を明確にすることや、意図的に対話する場面を設けることが必要である。